

# 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する 評価と「さらなる挑戦」に対する意見について (専門部会報告)

---

～目次～

農業部会	.....	1
林業部会	.....	2
水産部会	.....	3
商工業部会	.....	4
観光部会	.....	5

## 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(農業部会報告)

### 1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

農業分野では、高齢化の進行等により農家戸数が減少する中、「次世代型こうち新施設園芸システム」の普及拡大による施設野菜の反収の増加等により、農業産出額等の目標額1,060億円を既に達成するなど、評価できる。

#### <主な意見>

- ・ 中山間地域において高齢化が進む中、集落営農の組織化、法人化だけで地域を維持することは難しい。全国的に集落営農組織が減少傾向にある中で、若い担い手を如何に確保していくかが課題であり、30、40代が集落営農で生活することができる支援を考えていくべきではないか。
- ・ 全国的に次世代型ハウスでのトマトの生産が広がっているが、他県では品種の選定を誤り、食味の悪いトマトが生産されて単価も下がっている。高知県では家族経営体を中心とする高糖度などのブランドトマトの生産を続けてほしい。
- ・ G A Pは認証取得や維持費用がかかるため、個々の農家では難しい。H A C C Pも含めて産地と一緒に検討することが重要。東南アジア諸国では輸出規制が厳しくなっているため、安定的な輸出、また、幅広い販路の確保に向けて、今後ともG A P等の推進をお願いする。

### 2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなかった。

#### <主な意見>

- ・ 「とさのさと」は順調なスタートを切ったが、県の東西地域からの集荷力など、まだ弱い部分もある。また、今後、県内集出荷場の再編も必要となるため、県の支援もお願いしたい。
- ・ 「N e x t次世代」や「中山間地域でのスマート農業の推進」、また「カイゼン方式の普及」や「特定技能外国人の受け入れ拡大に向けた体制整備」など、労働力不足の解決に資する取り組みのさらなる強化を期待する。

## 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(林業部会報告)

### 1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

林業分野では、実行3年半の取り組みについて、高性能林業機械等の導入により原木の生産が大幅に増加するとともに、大型製材工場等の稼働により地産の強化について一定の効果が出ていることを確認した。

#### <主な意見>

- ・ 県は非住宅建築物の木造化に力を入れて取り組んでいるが、市町村の間で取り組みに温度差があり、新庁舎の建設等に県産材を使っていくといった意識が浸透していない。
- ・ 林業学校の短期課程の一期生として木造の勉強をさせてもらい、大変勉強になったと感じている。
- ・ フォレストスクールに講師として参加したときに、県の方は本当に参加者を大事にするので驚いた。こういった取り組み続けてもらえたら良いと思う。

### 2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなかった。

#### <主な意見>

- ・ 非住宅建築物の木材利用を推進していくべきだが、市町村はそういった意識を持っていないため、そこを県と民間で力を合わせて変えていかなければよくならない。
- ・ 他県に先行して液体ガラスによる防腐処理等の新たな商品開発に取り組むことにより、土佐材の差別化につなげられるのではないかと期待している。
- ・ 再造林の省力化を進めなければ、原木増産に対応した再造林が追いつかないのではないか。
- ・ 担い手不足に対し、県として外国人労働者の活用をどのように考えているのか。
- ・ 小規模林業者の安全性確保について県の方からも声がけしてほしい。
- ・ 担い手の確保(若者の定着率向上)のため、一番大切なのは生産性の向上であり、それにより賃金を上げていくことが必要。また、建設業界では「働き方改革に対応するか廃業するかしかない」との話があり、林業もいかに労働条件を整えていくかが重要。
- ・ 建築業界も人材不足が起きている。林業大学校で学び技術を持った卒業生が県内の設計業界に残っていけるようにしなければならない。

## 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(水産部報告)

### 1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

水産分野では、実行3年半の取り組みにより、大規模水産加工施設の整備が進むなど、輸出の本格展開の動きが加速してきたところであり、十分に評価できる。

<主な意見>

- ・本県において、キンメダイは重要な魚種であるため、引き続き、キンメダイの資源調査や他県の情報収集をお願いしたい。
- ・HACCPの義務化に向けて、水産加工施設の衛生管理に関する情報の提供をお願いしたい。
- ・県や漁協には、これまでもアドバイスや支援をいただいているが、相談に行かない漁業者もいるため、積極的なフォローをお願いしたい。
- ・外国人労働者の確保については、日本国内の産地間競争にとどまらず、海外との競争に至っている状況。
- ・改めて県が幅広い取り組みを行っていることがわかった。かつお、まぐろについても取り組みを進めていただきたい。

### 2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- ・黒潮牧場の高度化については、漁業者の意見を踏まえながら取り組みを進めてほしい。
- ・定置網漁業における未利用漁場への企業参入に関しては、人材の確保が重要な問題と考える。
- ・外国人労働者の受け入れに関しては、水産に限らず、幅広い分野に対応した受け入れ組織がそれぞれの地域に必要と考える。
- ・未利用漁場への企業参入に関しては、県東部においても、操業していない漁場があるため、海底地形等の調査について検討してはどうか。

## 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(商工業部会報告)

### 1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

商工業分野では、実行3年半の取り組みにより、企業の製品開発、生産性向上や外商支援、企業立地の進展などにより、製造品出荷額等が堅調に伸びていることなどから、目標達成に向け、成果があらわれているものと評価できる。

<主な意見>

- ・ これまでの産業振興計画の取り組みは大いに評価する。技術革新を始め、時代の流れが速い中で、これからは市場の変化をいち早く掴み対応していくことがより重要となる。事業承継を含め、中核となる企業を変革させて、高いオリジナリティを持って生き残っていけるよう戦略的な取り組みが必要。
- ・ 事業戦略の取り組みは成果が出てきているので、これまで培ってきたノウハウを経営計画の策定支援の取り組みにも生かしていったらどうか。
- ・ 商店街等振興計画策定の取り組みが進んでいけば、地域における商店街の位置づけも大きくなり、市町村や商工会・商工会議所もより力を入れてくれると思うので、今後も推進をお願いしたい。
- ・ IT・コンテンツ関連企業の誘致については、大きな成果が出ていると思うが、立地企業の定着が重要であり、そのためにも地元企業との関わりを深めていただきたい。

### 2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

<主な意見>

- ・ 商店街は特に観光と関連が深いので、観光分野の計画とも上手くマッチングさせることが必要。
- ・ 今は、経営者の意識改革の過渡期。業種転換や店を貸す、売るといった新陳代謝が起こっているところなので、U・Iターンの促進や頑張っている若手の経営者への支援などにより商店街の振興を図ってもらいたい。
- ・ 中山間地域は大変厳しい状況があるので、実態を知っていただき、地域格差を埋められるような支援をいただきたい。
- ・ 工場などでは、物流に関して貨物の保管場所に悩んでいるという声も聞くので、市町村を含め、そういった部分に支援もいただきたい。
- ・ IT関係の人材育成は、AI、IoTだけでなく地道なプログラムや少子高齢化を踏まえ若者以外を対象とした研修も必要ではないか。
- ・ AIやIoTは、一般的な技術になりつつあるので、製品開発については、県内企業を中心にしっかりと取り組んでいくことが重要。
- ・ 移住の促進や県内への人材定着には、高知家のコンセプトをさらに磨いて、高知県の素晴らしさをきちんと言葉にして発信すべき。
- ・ 産業振興計画は県民の幸せのための計画であり、Society5.0にしる、SDGsにしる高知県のための施策だということを失わずに、いち早く大きな流れを取り入れながら課題解決に取り組んでいくことが重要。

## 第3期産業振興計画の実行3年半の取り組みに対する評価と 「さらなる挑戦」に対する意見について(観光部会報告)

### 1. 実行3年半の取り組みに対する評価について

435万人観光の早期達成と定常化を目指して進めてきた取り組みの結果、平成29年、30年と県外観光客入込数が440万人を超えるなどの成果報告が事務局からなされ、観光商品をつくる、売る、もてなすの 카테고리ごとの成果も含めて部会員からの異議はなく、了承された。

<主な意見>

(「志国高知 幕末維新博」の開催)

- ・ 幕末維新博が2年間、開催されたことで、県内の歴史・文化施設の整備が進んだことや、施設職員の観光振興の視点に立ったPRや企画展示が展開されたことが大きな成果であった。

(観光客の受入環境整備)

- ・ クルーズ客船の増加などに伴い、外国人観光客の増加を通訳案内を通じて実感するとともに、外国人観光客の受入環境の整備が図られていると感じる。

### 2. 「さらなる挑戦」に対する意見について

「さらなる挑戦」については、県が示した方向性で進めることに異議はなく、具体的な施策については、今後、引き続き議論を重ね、対応していくことで了解した。

<主な意見>

(「志国高知 幕末維新博」後の取り組み)

- ・ 幕末維新博において、文化と観光の分野が密接に連携して取り組んだ関係性を今後も継続して欲しい。

(「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」の展開)

- ・ 地域の観光事業者にとって長雨や台風の接近などの天候不順は悪影響になるので代替施策の展開が必要。
- ・ 二次交通の整備も課題ではあるが、まずは、地域の事業者が観光客にアクセスルートを説明できる仕組みを構築して欲しい。

(観光客の受入環境整備)

- ・ クルーズ客船の受入では、シャトルバスの待ち時間の長さへの苦情がある。
- ・ クルーズ客船等の観光客にタウンモビリティのサポートに関する情報提供をして欲しい。

(国際観光の推進)

- ・ プロモーションについては、デジタルマーケティングも生かしながら、質的な変化が求められ、攻めの展開が必要。
- ・ 動画等の作成をする場合も、それぞれの客層に受ける引きの強いものや、他県に負けないビジュアルで訴求できるものにして欲しい。

(観光事業者の強化と観光人材の育成)

- ・ 育成した人材や事業者が独り立ちするまで寄り添い、フォローする体制が必要。
- ・ 県全域をカバーするKVC AのDMO法人化も必要。

(スポーツツーリズムの推進)

- ・ スポーツツーリズムを推進する際には、県や市町村間でビジョンの共有が必要。